

愛媛県の地震

2020年（令和2年）7月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況（7月）	1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（7月）	2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震 の震度分布図（7月）	3
5. 地震一口メモ「南海トラフ沿いにおける 地殻変動監視の強化について」	4

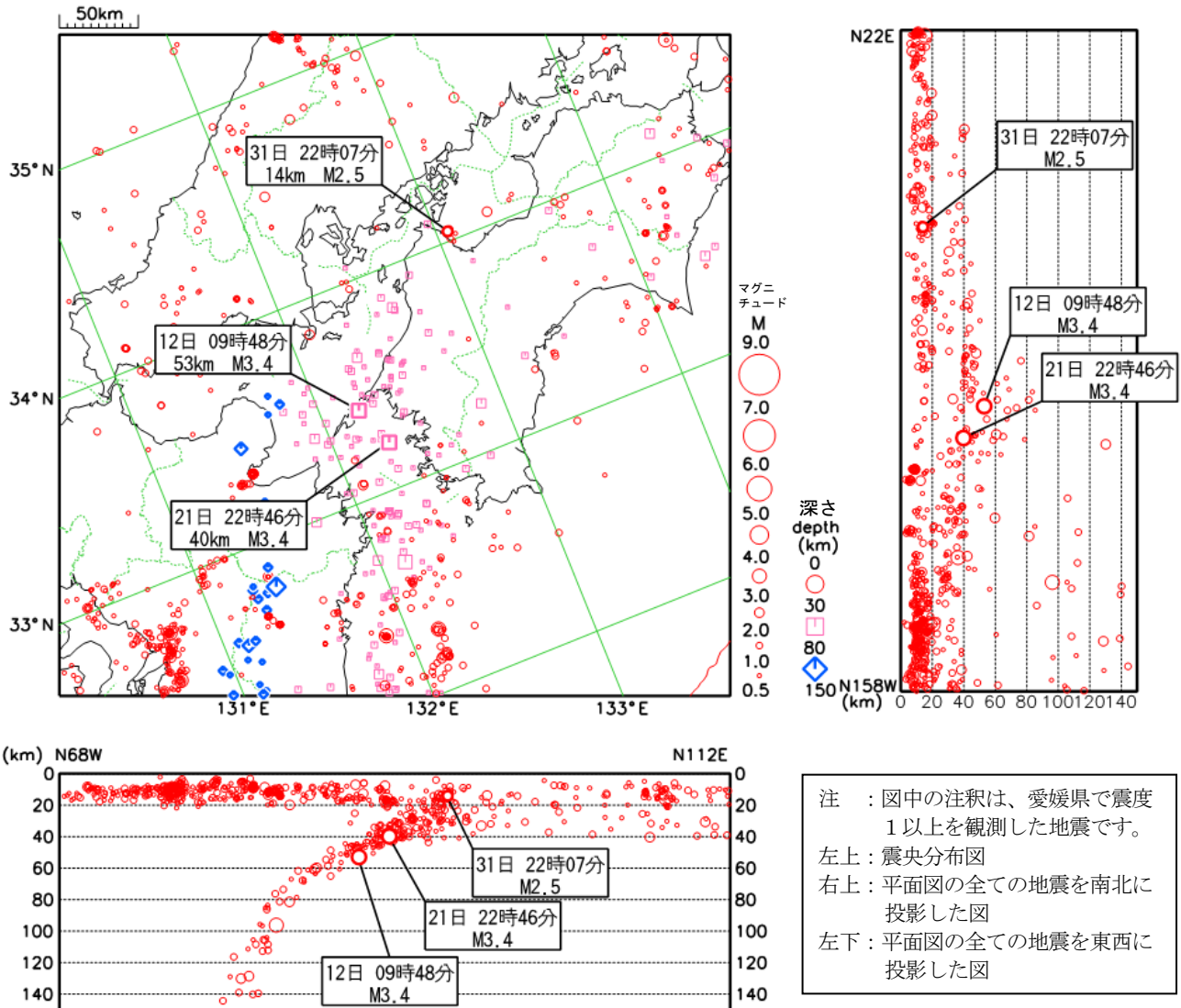
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2020年7月1日～7月31日]



震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。○より◇の方が深い場所で発生した地震です。また、シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を表現しています。

2. 地震概況（7月）

今期間に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうち M2.0 以上の地震の回数は 52 回（先月は 52 回）、愛媛県内で震度 1 以上を観測した地震は 3 回（先月は 2 回）でした。

12日 09時 48分 豊後水道の地震（深さ 53km、M3.4）により、愛媛県宇和島市・八幡浜市・伊方町・西予市で震度 1 を観測しました。

21日 22時 46分 豊後水道の地震（深さ 40km、M3.4）により、愛媛県宇和島市・西予市で震度 2 を観測したほか、愛媛県、高知県で震度 1 を観測しました。

31日 22時 07分 瀬戸内海中部の地震（深さ 14km、M2.5）により、愛媛県今治市で震度 1 を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（7月）

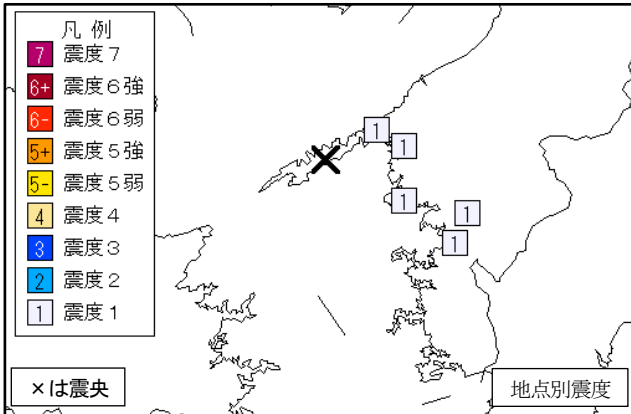
震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
愛媛県内各地の震度						
2020年07月12日09時48分	豊後水道	33° 24.8' N	132° 12.8' E	53km	M3.4	最大震度1
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 1：宇和島市丸穂＊, 宇和島市三間町＊, 八幡浜市五反田＊, 伊方町湊浦＊ 西予市明浜町＊					

2020年07月21日22時46分	豊後水道	33° 13.0' N	132° 18.3' E	40km	M3.4	最大震度2
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 2：宇和島市丸穂＊, 西予市三瓶町＊ 震度 1：宇和島市住吉町, 宇和島市津島町＊, 宇和島市吉田町＊, 宇和島市三間町＊ 八幡浜市五反田＊, 大洲市肱川町＊, 大洲市長浜＊, 伊方町湊浦＊, 松野町松丸＊ 西予市明浜町＊, 愛媛鬼北町近永＊					

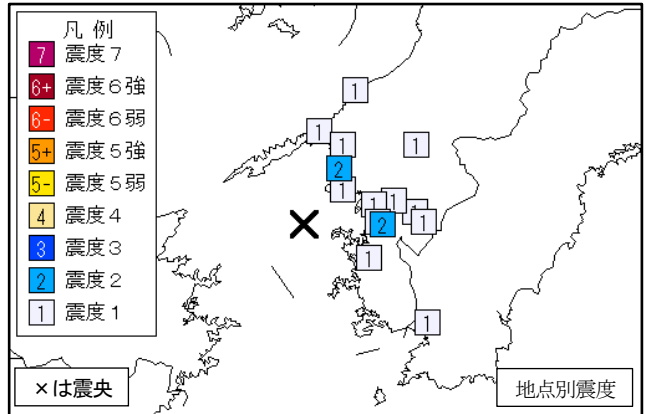
2020年07月31日22時07分	瀬戸内海中部	34° 02.7' N	133° 03.8' E	14km	M2.5	最大震度1
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 1：今治市宮窪町＊					

注：＊印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

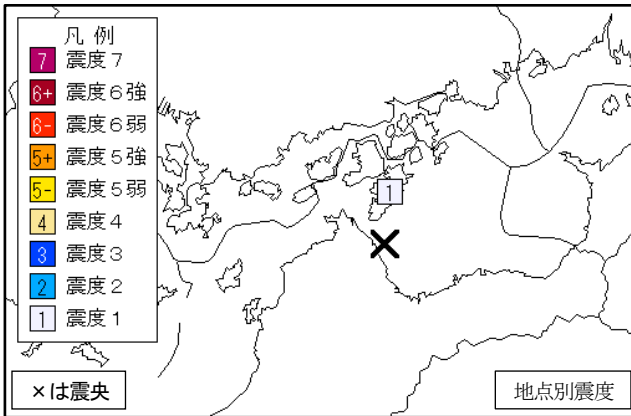
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図（7月）



7月12日09時48分 豊後水道



7月21日22時46分 豊後水道



7月31日22時07分 瀬戸内海中部

5. 地震一口メモ

南海トラフ沿いにおける地殻変動監視の強化について

南海トラフ沿いのプレート境界では、通常地震よりもはるかに遅い速度でゆっくりとプレートがずれ動く「ゆっくりすべり」が発生することがあり、大規模な地震の発生に関連性があるものと考えられています。

気象庁はこれまで「ゆっくりすべり」の常時監視を東海地域に設置しているひずみ計のデータを用いて行ってきました。今般、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下、産総研）が運用する愛知県、三重県、和歌山県、愛媛県、高知県のひずみ計（12観測点）のデータをリアルタイムで活用できるようになったことから、気象庁では令和2年6月25日11時より、「ゆっくりすべり」の常時監視にこれらのデータを活用し始めました。

このことにより、南海トラフ沿いにおける地殻変動監視が強化され、南海トラフ全域において、「ゆっくりすべり」の発生を早期かつ広範囲に検知できるようになり、南海トラフ地震に関連する情報をより迅速に発表することが可能となります。

気象庁では今後も、産総研の解析技術などの研究成果を取り入れ、南海トラフ沿いにおける異常な現象の検知・解析技術の高度化に取り組んでまいります。

表 新たに常時監視の対象とする産総研のひずみ計を用いた観測点

愛知県	三重県	和歌山県	愛媛県	高知県
豊橋多米（とよはしため） 豊田神殿（とよたかんの） 西尾善明（にしおぜんみょう）	津安濃（つあのおう） 熊野磯崎（くまのいそざき）	田辺本宮（たなべほんぐう） 串本津荷（くしもとつが）	新居浜黒島（にいはまくろしま） 西予宇和（せいようわ）	室戸岬（むろとみさき） 須崎大谷（すさきおおたに） 土佐清水松尾（とさしみずまつお）

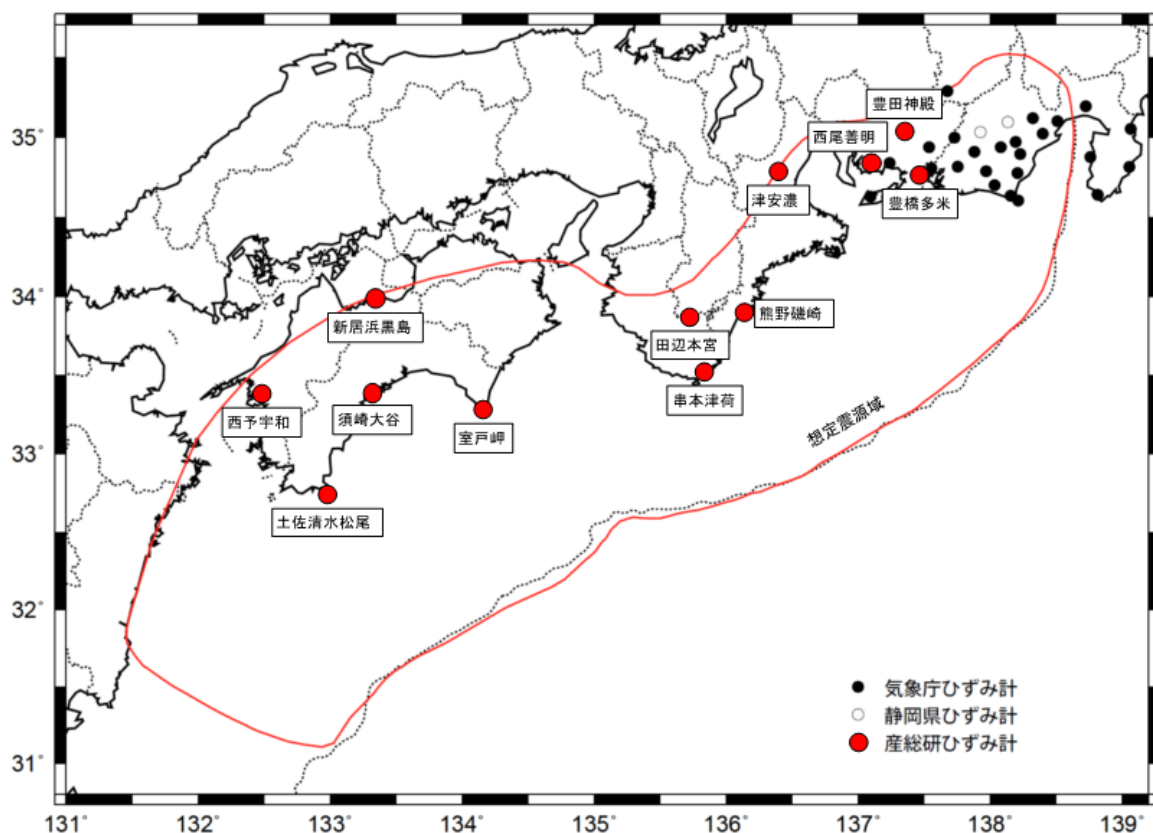


図 南海トラフ沿いのゆっくりすべり監視に用いるひずみ計観測点

報道発表資料（南海トラフ沿いにおける地殻変動監視の強化について）

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2006/23a/nt20200623.html>